



白川小だより

学校の教育目標

ひとりだち

すすんで (自立)
なかよく (共生)
みんなのために (貢献)

平成28年12月1日 (木)

文部省唱歌「ふるさと」

白川郷学園白川小学校 校長 下出 尚弘

文部省唱歌「ふるさと」は、ふるさとを懐かしく思い出す歌、ふるさとの自然や共に暮らした人々を大切に思う気持ちが伝わってくる歌として、多くの人々に親しまれています。

白川郷学園の子どもたちが歌う「ふるさと」を聴きながら、「子どもたちはどんな思いで歌っているのだろう」、「これから数年後、巣立っていくときにどんな思いで歌うのだろう」、「大人になった時、どんな情景を思い浮かべ、どんな志を胸に歌うのだろう」などと思い巡らせています。

私にとって、「ふるさと」はとても大切な歌です。特に三番の、「志を果たして いつの日か帰らん」の歌詞は、その時その時の自分の置かれた状況の中で、自分自身を支え、奮い立たせてくれています。

30代、岐阜市の小学校に勤務していた頃は、深夜の学校の廊下で歌い、くじけそうになる自分自身を奮い立たせていました。40代、単身赴任で大垣市や岐阜市に勤務していた頃は、月曜日の朝5時に古川町の自宅から勤務先へ向かう車の中で、家族を思い歌いました。

50代、白川郷学園の子どもと共に歌う「ふるさと」は、これまで自分が思いを込めて歌っていた「ふるさと」とは少し違います。これまでは、自分の家族やふるさとの友だちを思い、また、やりぬこうという決意をもって歌うことが多かった気がします。しかし、今、白川郷学園の子どもたちと「ふるさと」を歌う時、子どもたち一人一人の未来を思い歌うことが多いです。成人したこの子たちが、高い志をもち、ふるさとへの熱い思いを胸に白川村に貢献する白川びとになることを願いながら歌っています。

今日も、教室から「ふるさと」が聞こえてきました。「ふるさと」が子どもたちにとって、大切な歌になることを願います。この仲間ですごしたことや過ごしたことも、いつの日か自分を支えるふるさとの原風景となるように、日々の教育活動に取り組んでいきたいと思いました。

ふるさと

高野辰之 作詞
岡野貞一 作曲

一

うさぎ追いし かの山
小ぶな釣りし かの川
夢は今も めぐりて
忘れがたき ふるさと

二

いかにいます 父母
つつがなしや 友がき
雨に風に つけても
思いいずる ふるさと

三

志を 果たして
いつの日にか 帰らん
山は青き ふるさと
水は清き ふるさと